ガイディング・プリンシプルズ: 新たに誕生した『伝統』に関するワークブックをみんなで使いこなす

少人数のグループによるディスカッションの議題

伝統 3: メンバーであるために要求される唯一のことは、使うことをやめたいという願望だけである。

どこであろうとアディクトが苦しんでいるところへ、私たちが運ぶメッセージは決まっている。アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物をやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができるということだ。伝統３と伝統５の間には明らかなつながりがある。私たちは、だれもが歓迎されていると感じてもらいたいし、メッセージを運ぶために全力をつくしたいと思っているからだ。サービスによって私たちがやるべきことは、アディクトがナルコティクス アノニマスで回復するチャンスをつかめるようにすることである。そして、*NA*のメッセージには「どんなアディクトであっても」となっていることを、私たちは伝統３によって再確認し、だれもがみな*NA*につながって回復の道を歩めるようにすべく努力する。そしてまた、伝統３では、「どういう人が、いなくなってしまうのか」という問いに立ち戻ることを繰り返し求められ、それによって使うのをやめたいと願うアディクトはだれもがみな、私たちにとって大切な存在なのだということを気づかせてもらえるのだ。

議題: ミーティングからいなくなってしまったのは、どういう人だろうか？　外部の問題はどのようにして、そしてなぜ、アディクトが私たちの地域のNAで回復するチャンスに影響を及ぼすのか？

みなさんの意見を収集するために、この用紙は会場においていくか、あるいは写メールにして送っていただくようにお願いします。お疲れさまでした。